

答辞

暖かな陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じる今日の佳き日に、私たち卒業生のためにこのような盛大な式を挙行していただき誠にありがとうございます。また、ご多忙の中ご臨席賜りました、ご来賓の皆様方、小西理事長先生、高橋学長先生をはじめとする教職員の皆様方、並びに関係者の皆様方に卒業生一同、心より御礼申し上げます。

入学当初は、自分で時間割を組むという高校までとは異なる履修の仕方や知り合いがほとんどいない状況に戸惑いを感じていました。また、生まれ育った徳島を出て一人暮らしを始めたため、心細さも感じていました。しかし、時間がたつにつれ、実習で同じ班になった仲間や学籍番号が近い者同士で話すなどを通して友人が増えていきました。

私の所属する食物栄養学科では、栄養士免許の取得に向けて日々勉学に励み、栄養学や衛生学などの講義や実験、調理実習、実際の給食提供を想定した実習を行いました。私は、このような専門的な授業に苦勞することが多々ありました。特に、給食管理実習は発注書作成や食品の保管温度など覚え

ることが多いことと、調理においても決められた時間に提供しなければならぬというプレッシャーに打ちのめされそうになりました。また、私は松山市の事業所の社員食堂で学外実習をさせていただきましたが、いつもの学内実習と違い、現場の方に交じって調理を行うだけでなく、社員の方々が召し上がるためとても緊張しました。現場では大量の食材の処理に追われ、一口大とは到底思えないような大きさのレタスを提供したり、盛り付けが間に合わなかったりするなどの失敗の連続でした。明らかに食べにくい料理を提供してしまつたことに対する申し訳なさ、自分の実力不足に気付かされた事に自信を無くしていましたが、そのような中でも同じ目標を持つ仲間たちと支えあい、励まし合いながら乗り越えていくことができました。失敗を繰り返しながらも調理技術が上がり、実習最終日には食材を早く均一な大きさに切る事ができるようになりました。包丁の扱いが上手くなった事を実習後の授業で発表したところ、先生方が私の成長を認め褒めてくださったことを覚えています。

そのような先生方とは授業のときに限らず普段の学生生活や進路の話など、たくさん話をさせていただきました。そ

の際はいつでも親切に聞いてくださり、私たちに優しく時に厳しく助言をしてくださいました。日頃より私たち一人一人のことを考えてくださっている事がわかります。いつも私たちの事を温かく見守りご指導いただき本当にありがとうございます。ございました。

私は、学生会に入っていました。東雲祭の企画や、その他学校行事の運営をする時聞いた時、最初は私にできるのだろうかと不安でした。しかし、先輩方が優しく教えてくださった事と他学科の同級生と仲良くなれた事により、不安が楽しみに変わりました。私は主に電気・ガスの提供などのお仕事を担当していました。地味でありながらもやりがいを感じる事ができました。共に支えあい、励ましあった学生会のメンバーは、私にとってかけがえの無い大切な仲間です。学生会に入り一メンバーとして活動できた事を誇りに思います。これから私たちはそれぞれの道を歩んでいくこととなります。新しい環境の中で困難にぶつかることがあると思います。しかし、東雲でのかけがえの無い思い出と、この感謝の気持ちを胸に日々精進して参ります。

最後になりましたが、学長先生をはじめ教職員の皆様方や

地域の皆様、そして学生生活を支えてくださった家族に改めて御礼申し上げます。

そして、後輩の皆様のご活躍と松山東雲短期大学の益々のご発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

二〇二〇年 三月十三日

松山東雲短期大学 卒業生代表